

日本最古級の九九一覧表 一藤原京跡左京七条一坊出土一

2024.9.13 奈良文化財研究所
文化遺産部 歴史史料研究室

五九番五	六九五十四	七九六十三	八九七十二	九々八十一	四九卅六	六八番八	七々番九	二七十四	二六十二	四々十六	二々如四
七八五十六	八々六十四	二九十八	三九廿七	四九卅六	五八番	五八番	六七番二	六々卅六	五々廿五	三十四十二	一々如一
二八十六	三八廿四	四八卅二	五八番	六八番八	六八番	七々番九	六七番二	六々卅六	五々廿五	三十四十二	一々如一
三七廿一	四七廿八	五七卅五	六七番二	七々番九	七々番九	七々番九	六七番二	六々卅六	五々廿五	三十四十二	一々如一
三六十八	四六廿四	五六卅	六六卅六	七々番九	七々番九	七々番九	六七番二	六々卅六	五々廿五	三十四十二	一々如一
二五十八	三五十五	四五廿	五五廿五	六六卅	六六卅	六六卅	六七番二	六々卅六	五々廿五	三十四十二	一々如一
二三如六	三々如九	二四如八	三四十二	四四十六	四四十六	四四十六	六七番二	六々卅六	五々廿五	三十四十二	一々如一

九九一覧表復元図
(赤アミが残存部分。)



赤外線画像 カラー写真
(写真は原寸大。)

2001年の飛鳥藤原第115次調査で見つかった木筒。長さ162mm、幅12mm、厚さ3mm。当初は、「九々八十一」の次を「四四十六」と読み、規則性がないため習書（文字の練習）と考えていた。2023年に最新の赤外線観察装置を用いて再検討をおこなったところ、「四九卅六」の可能性が高いことが判明し、右から左へ5行ずつ、段組にして書き進めた一覧表の、右上部分にあたる可能性が高まった。

「一々如一」まで書かれていた場合は、全体で8段組となり、現存する長さから比例計算すると、本来の長さは326mm程度に復元できる。右から左へ書き進める九九の一覧表は、中国秦漢時代の木筒に多く、日本では10点弱の出土例がある。

この木筒の年代は、大元年(701)・2年(702)を中心とする7世紀末から8世紀初頭まで頃とみられ、実用的な九九の一覧表としては、日本最古級に位置づけられる。



飛鳥藤原第115次調査区(北西から、2001年)



木筒出土地(南から。ピンク色のアミ掛けの場所から出土した。写真中央の赤い四角は藤原宮の範囲。)